

子どもを観察する力～自立へのステップ～

●「お母さんの「敏感期」」～モンテッソーリ教育は子を育てる、親を育てる～
相良敦子/文春文庫

20世紀初頭、イタリアのマリア・モンテッソーリ博士が生み出し、今も世界中で支持されている「モンテッソーリ教育」。その一番の特徴は、子どもには特定の事柄に特別な感受性を発揮する「敏感期」があることを指摘し、その重要性を唱えたこと。そしてそれを発見するのはお母さんのすぐれた観察力。本書は、わが国のモンテッソーリ教育の第一人者である著者が豊富なイラストとともに解説する、育児書の決定版です！



目次

はじめに 3

第一章 モンテッソーリ教育からのヒント

一、子育てに役立つ基本的な知識 17
モンテッソーリ教育を知りたいのですが、その機会がつかめません。自分で学ぶ方法はないでしょうか？ 17/お稽古事や塾は、いくつぐらいさせるのがいいのでしょうか？ 22/優秀な頭脳とは、子どものころできると聞きますが、いつごろ、どのような経験をさせるのがいいのですか？ 27
二、モンテッソーリ教育を利用する出発点 41

幼児教室のかわりに、うちでこんな工夫を娘にしてみました。 41/モンテッソーリ教育を理解するのに、何から始めたらいいのでしょうか？ 48/裸や障子をあんなに破ったのに、少し大きくなったら興味を示さなくなりました。 53

三、「敏感期」という燃えあがる時期 56

「敏感期」という言葉は初めて聞きました。「敏感期」ってなんですか？ 59

第二章 子どもの「敏感期」 63

一、《秩序感》の敏感期 63

三歳の子どものちょっとしたことにこだわったり、大泣きしたりすることがあって、困っています。強情なのでしょうか？ 反抗期なのでしょうか？ 66

二、《感覚》の敏感期 77

思いがけないことを言ったり、することがあって、驚いたり、あきれたり、感動したりしています。どうしてでしょう？ 77

三、《運動》の敏感期 90

まだ小さいのに、自分のからだよりも大きな荷物を持ちたがるのですが……。 90

四、とり逃がした敏感期 105

上の子子育てのとき、「敏感期」なんて知らなかったで、大事な感受性を無視してしまいました。もう手遅れでしょうか？ 105

第三章 お母さんの「敏感期」 109

一、「自分でしたい！」敏感期 111

子どもは、ひとりでやりたいと望んでいるのですか？ 112

二、お母さんの工夫 116

どうやったら子どもにうまく教えられるですか？ 116

三、お母さんの「敏感期」 126

子育てをしていて、いつも「これでいいのだろうか？」と自信がないのです。 128/「この子は、間に合った」という思いが不思議にわいてくるのです。 135

第四章 子育てのキーワード「じりつ」—自律と自立 141

一、知性の「働き方」と「自律」 143

子どもが自発的に、どんどん活動を展開させていくことがあります。何がそうさせるのですか？ 143

二、知性の性質としての自発性 152

なんでも分けたがるのはどうしてですか？ 152

三、《自律》と《自立》 157

子育ての間じゅう一貫して心がけるべきもっとも大切なことを一つあげるとすれば、それはなんですか？ 157/「自律」ってなんですか？ 161/小さいときは、「自分でする！」といい張って困ったのですが、大きくなると「お母さんしてえ」といって、自分からしようとせずに困っています。 168/「自立」に向けて教えるって、どういうことですか？ 172

第五章 家庭でできる手づくり教材 177

一、「一歳から二歳半」の子どものために 178

二、「3歳以降」—就学前にやっておくべきこと 194

第六章 子育てに大事な五つの鉄則—イラストによるまとめ 229

一、大人と子どもはちがう 232

二、子どもの動きをよく見よう 234

三、子どもは見ている 238

四、不言実行 240

五、熟成 244

あとがき 246

文庫あとがき 248

第二章 子どもの「敏感期」 63

一、《秩序感》の敏感期 63

三歳の子どものちょっとしたことにこだわったり、大泣きしたりすることがあって、困っています。強情なのでしょうか？ 反抗期なのでしょうか？ 66

ちょっとしたことで、今まで機嫌よくしていた子どもが、急に泣きだしたり、ごねたりして、どう対処してよいかわからず途方にくれてしまった経験をお持ちのお母さんは多いでしょう。子どもが、そのような反応をする場合は、かならず原因があるのですから、原因を探してみる習慣をつけましょう。子どもの不機嫌な反応は、敏感期にある子どもが何かに強い興味や関心をいだいたにもかかわらず、大人の鈍感さによってその興味が断ち切られたときにあらわれます。そのことを「《秩序感》の敏感期」ということばで説明しましょう。生後数か月からあらわれて2・3歳ごろをピークとし、6歳ごろにはほとんど消えてしまう、「秩序感」という神秘的な感受性をもつ時期があります。●いつも決まった＜順番＞どうりでないと気がすまない。●いつも同じ＜場所＞でないといやだ。●「これは私のもの！」「これはパパのもの！」「これはママのもの！」などと、＜所有物＞がちょっとでも入れかわると怒る。●「いつもやってるようにしてえ」と、平素と異

なるやり方をすると怒りだす。というふうに、この時期は「順番・場所・所有物・習慣」などに非常にこだわります。自然が子どもに秩序への敏感さを植えつけて、さまざまな事柄の間にひそむ関係を気づかせる、最初のステップなのです。内部にめばえるこうした感覚によって子どもは、自分を取り巻く環境全体を一つにまとめたり、全体の中で部分の相互関係を理解できるようになります。■いつもの道じゃないから……■あゆちゃんは、保育園へ行く途中でかならず次のことをします。家をでると、すぐ近くにあゆちゃんの背の高さほどの交通標識があります。まずこの金属製の標識を手でバンバンと叩きます。次に川沿いのフェンスから石を川にボトンと落とします。その次は、いつも堀の下から顔をのぞかせている犬にごあいさつをします。ママが、「今日は遅刻しそうだから」と思って近道の別の道でもとうろうものなら、もう大騒動！大泣きされて、あげくのはては、また家に戻って、いつもの道を通り、標識をバンバン叩き、石を川へ落とし、犬にあいさつをする、ことになるのだそうです。もしもママが《秩序感》の敏感期のことを知らなかったら、「今日は、ママが急いでいるのだから、こっちの道でがまんしなさい！」と叱りつけて強引に近道で行ってしまうでしょう。でも、たったこれだけのことで、子どもの心の傷はその夕方までも癒えず、グズグズした状態が続き、その子どもの状態にママは、ますますいらいる、という悪循環になってしまうのです。

二、《感覚》の敏感期 77

思いがけないことを言ったり、することがあって、驚いたり、あきれたり、感動したりしています。どうしてでしょう？ 77

ある二つの幼稚園の母の会で、夏休みに入る前に、お母さん方に宿題を出しました。子どもがおもいがけないことをいったり、しているのを見かけたらそのことをまず、お母さんの心に書きとめてください。もしも時間のゆとりがあったら、この紙に書いてください。一つの幼稚園では、4月・5月・6月・7月と4か月にわたり月に1回ずつ、お母さん方に「子どもの見方」についてお話をしていました。もう一つの幼稚園では1回も話しませんでした。夏休みが明けて提出されたレポートは二つの園でまったく質がちがいました。毎月お話をした方の幼稚園のお母さん方は、「感動した！感心した！驚いた！あきれた！不思議だった！」という言葉に満ち満ちていました。じつに素朴な日常のことなのに、お母さんがよく気づいているのです。【私が洗濯物を干していると、そばで、洗濯ばさみを入れている空缶のかたわらでおとなしく遊んでいます。見ると、缶の縁に洗濯ばさみを、色別に順序を変えていろいろ挟んでいます。最後は、それを冠のように頭にのせて満足そうにしていました。】もう一つの園のお母さん方は、口をそろえたように、次の2項目が文中にありました。一つは、【夏休み中、この宿題のこともあったので、注意して子どもを見ていましたが、特に「これ」といった書きとめるほどの行動もありませんでした。】ということなのです。もう一つは、【私は、この子に、豊かな感性をもつ子になってほしいと思っています。】あるいは、【私は、子どもの心が理解できる母親でありたいと願っています。】というふうに、「……なしてほしいと思う」という子どもへの期待と、「……ありたいと願う」という自分の願望が、かならずどこかに書いてあるのです。子育てをしているお母さんは、幼児期特有の行動や感受性をよく知っている人、幼児期特有の不思議な行動をする意味をわかっていて、見守ってあげることのできる人、その意味での「子どもの専門家」であることが必要でしょう。■特に感じやすい時期■「視覚・聴覚・嗅覚・触覚・味覚」は人間が外の世界と関係を持つ大切な窓口です。この大切な窓口が、完成し洗練されるのは3歳から6歳です。この一つひとつを、使うことによって、それぞれの器官を完成し、その器官のもっている機能を洗練します。たとえば、子どもは身近にある小さなものを一生懸命に見つめながら、わずかな形や色のちがいを見分ける力を身につけます。この「《感覚》の敏感期」は、一生に一回きりの感覚をすばらしく洗練していく時期です。この時期に、一つひとつの感覚をよく使い洗練することが、将来において高い専門性・すぐれた芸術性・デリケートな道徳性などを身につけることのできる土台をつくることになります。

三、《運動》の敏感期 90

まだ小さいのに、自分のからだよりも大きな荷物を持ちたがるのですが……。 90

3歳ごろになると、自分の意思がはっきりしてきて、子どもは、「自分が主人公」「自分の行動の主人公」になりたいと思います。自分の意志どおりに目的に向かって動きたいとおもっているのです。この時期は、自分の意思を使って、自分の思いどおりに動かす随意筋を訓練する時期なのです。随意運動がよくできるようになるために、強烈なエネルギーを発揮するときでもあります。この時期には「運動」に関連するいろいろな特徴があります。●「ありとあらゆる《動き方》」を身につけようとする。●そのために「どう動けばいいか」に強い関心を持ち、人の動きを真剣に見ている。●《動き方》を身につけるために精一杯努力する。この時期は、一生に一回だけ人間が全力をだし切ることをけっしておしまないというめずらしいときなのです。この時期を過ぎると、人間は常に力を節約する方に働き、なるべく「ラクをしたい」と願い、動かないですむような工夫をこらす時期に入ります。「ありとあらゆる《動き方》」の内容をおおまかに区分すると、次のようになります。①大きな動き(からだ全体を力一杯動かす)②バランスをとる(線の上を歩いたり、重いものを持ったりする)③手腕を使う(手首や腕を使って何かをする)④指先を使う(手先を使って小さなことをする)これらは「《運動》の敏感期」にいる子どもの特徴です。

第三章 お母さんの「敏感期」 109

若いお母さんは、自分の「子どもの敏感期」を見る目をもつことが大切ですが、同時に子どもへの接し方について考えたり工夫したりする「母親としての敏感期」にいることを自覚することが非常に重要です。

一、「自分でしたい！」敏感期 111

子どもは、ひとりでやりたいと望んでいるのですか？ 112

4歳前後の子どもは、「運動の敏感期」にいます。「自分が自分の行動の主人公でありたい」望みと「ありとあらゆる動き方を身につけたい」望みが心の中に渦巻いているこの時期には、もう一つの内面のエネルギーが強く働きだしています。それは知性のエネルギーです。この宇宙におけるすべての動物は法則に従って動きます。人間は「知性の法則」に従って動くのです。「どう動けばいいか、知りがっている」子どもは「知性の法則」にそって「動き方」を学びます。●《知性の働き》は、ひとことでいえば、＜区別する＞ことです。まず「分ける」のです。次に分けたものを「集める」、分けたものを「較べる」、分けたものを「合わせる」などします。別の言葉でいえば、「分析」「集合」「比較」「対応」などをするというわけです。知性は、分析・集合・比較・対応など論理数学的な法則性によって、どんどんと展開します。●《知性の性質》は、ひとことでいえば、＜自発性＞なのです。知性が働くところには自発的な発展がみられるわけです。■子どもは学びたがっている■子どもが、自分の目でしっかり見て「なるほど、そうするのか！」とわかって、「自分もやってみよう」と自分でやってみて、「どうすればいいか」を身につけるときは、たんに「できるようになった」のではなく、「動き方」を「学んだ」ことになるのです。この時期の子どもは本当は、「自分でやりたい！」のであり、しかも自分の動きを完成しなければならない敏感期ですから、「より完全に！より美しく！動きたい」というあこがれをもっています。そして、そのためには「どうすればいいか」と注意ぶかく見て、自分の頭で理解しようとしています。「動きたい」という強い望みは同時に、「学びたい」という強い力をも含んでいるので、この望みと力をいかすことに手間をかけることこそ、子どもの中に「学びとる力」を真に育てることになります。

二、お母さんの工夫 116

どうやったら子どもにうまく教えられるですか？ 116

■子どもができるようになる教え方■（提示）①対象を一つだけ取り出す。②動作を分析し、順序立てる。③むずかしいところを、ハッキリさせる。④動作を見せる間は、言葉は使わない。⑤正確に実行し、精密なところに心をこめる。⑥教えながら、教える。⑦自分からする自由を与える。【「どうやったら足音が消えると思う？」「ほら、こうやると足音がしないでしょう」と静かに手を振って、爪先からかかとまでゆっくりおろして歩いてみせました。子どもたちは、ジーッと見て嬉しそうに笑いました。そして、競って同じように静かに歩きました。あんなに口をすっぱくして注意をし続けたことが、これほどかんたんに解決するとは思わず、驚いてしまいました。そして、あらためて、「提示」の力の大きさを感じました。】

第四章 子育てのキーワード「じりつ」ー自律と自立 141

「自律」と「自立」とはコインの裏表のようなものだとは私は思っています。「自律」がなければ「自立」はありえないし、「自立」に連ならない「自律」は機械的で危険です。「自律」も「自立」も、命令や励ましで育つのではなく、心身の必要が満たされたときに、内面からあらわれてくるものなので、モンテッソーリは、まず心身の必要性や必然性をよく観察し、それを満たす方法を生みだしました。その方法によって援助された子どもは、「じりつ」していることが特徴となります。【「じりつ」があらわれるためには、「知性」が正しく方向づけられることが必要です。（第三章参照）

三、《自律》と《自立》 157

「自律」ってなんですか？ 161

《自律》とは●自分の頭でよく考え（知性を働かせ）●自分のからだ（感覚器官や運動器官）をよく使い●自分のやりたいことを自分で追求したり展開できる力でも考えたいものです。「敏感期」と「知性」のエネルギーが十分に発揮された生活において身につくのです。①敏感期の感受性にうながされて自分から環境にかかわっていく能動的で積極的な行動が、いつも認められた生活②知性の法則にそって、自分のイニシアティブと自分のリズムで考えながら活動を進める自由を保障された生活この二つのことが認められ保障された日常生活を幼児期にもった子どもは、自分で考えて行動する個性と創造性をもった人になります。

「自立」に向けて教えるって、どういうことですか？ 172

「自立」とは●自分の奥深いところになんらかの自信・確信・安心が生じる。●周囲の人や物と安定した関係をもつことができる。●自分で決めたり、選んだり、責任をとることができる力があることだとも考えたいものです。自立していくのにはかならずたどる道筋があるのです。①自分から自由にかかわる②かかわったことを続けてする③続けてするうちに全人格的にかかわりになる④かかわり抜いて「やった！」「すんだ！」「わかった！」などの実感で終了する。この四つの段階を通過し、深い充実感や自信を味わったときに子どもは人格の奥深いところから変わり始めます。人に依存せず、自分で決めたり選んだりできるようになります。そして人に親切になり、周囲の人のことを思いやることができ、さらには積極的によいことをしようとする態度さえあらわれます。自由な心と規律正しさが目立ちます。このように子どもが変化するきっかけは、日常生活の中のごくささいなこと。大人の目からすればなんでもないようなことが、子どもの敏感期のエネルギーと知性のエネルギーを躍如として燃えあがらせる機会となり得るのです。

●「ヘレン・ケラーはどう教育されたか」

—サリバン先生の記録— サリバン著/明治図書



サリバン女史の手紙 9

ヘレン・ケラーは一歳八ヶ月のときにかかった重たい病気のために聴力と視力を失い、7歳までなんの教育も受けずに育った。アン・マンズフィールド・サリバンは十歳のときに救貧院に入れられ、悲惨な少女時代を送った。さらに子供の時に目の病気を患って、全盲に近い状態となり十四歳のときにパーキンス盲学校に入学した。幸い彼女の視力は回復し、学校を卒業するとヘレンの教師に推薦され、サリバンによる教育が始まった。

1887年3月6日

ヘレンはひどく短気で、わがままで、兄のジェイムズ以外は誰も彼女をおさえようとしなかった。サリバンは力だけで彼女を征服しようとせず、じっくり訓練をはじめることにした。最初にことばを教えようと人形を持たせ手のひらに doll と綴りを書き単語を教えていったが、彼女

は、物はみなそれぞれ名前を持っているということをまだわかっていなかったため言葉の意味を取り違えることが多くあった。

アラバマ州タスカンビア 1887年3月11日

ヘレンの家族や雇人、遊び相手の子供などへの対応はまるで暴君のようで自分の好きなようにする権利を保持していた。このままではいけないと思い、ヘレンとサリバンは一軒家に二人だけで暮らすことにした。サリバンは、ヘレンがサリバンに服従することを学ぶまでは、言語やその他のことを教えようとしても無駄だということがわかった。服従こそが知識ばかりか、愛さえもがヘレンの心に入っていく門出であると確信するようになった。

1887年3月20日

ヘレンとサリバンが二人暮らしを初めてから2週間でヘレンは優しい子供に変わった。ヘレンはサリバンに心を許し、服従という最初の教訓を学び、拘束が楽なものだと気がついた。

1887年4月5日

ヘレンは、すべての物は名前をもっていることと、指文字が自分が知りたいすべてのことへの手がかりになるということを手伝った。ヘレンは、なにかの名前を知りたいときには、知りたいものを指さし、サリバンに綴りを教えてもらう。ある日彼女は水に興味を持ち water という綴りを教えてもらった。井戸小屋に行き、サリバンが水を汲み上げている間、ヘレンには水の出口の下にコップを持たせていた。冷たい水がほとぼして湯のみを満たしたとき、ヘレンの手に water と綴ると彼女はびっくりし明るい表情を浮かべた。

1887年5月16日

自分に話されたことを他人に話したいという欲求は、著しい知的な進歩を示し、また、言葉の習得にとつてはかり知れない刺激になる。サリバンはヘレンの友達全部に、ヘレンを勇気づけて自分の行動を話すようにさせたり、彼女のささいな進歩にもできるだけ好奇心や喜びを示してほしいと頼んだ。話したいという衝動はとても大切なことだ。サリバンはいたるところで単語や、時には文章を補って、ヘレンが抜かしたり忘れてしまったことを暗示する。こうして、ヘレンの語彙は急速に増え、新しいことばが芽生え、新しい思考を生み出す。

1887年7月3日

ある日ヘレンはひどいかんしゃくを起こしヴィニーのことを引っ掻いたり噛んだりしていた。ヘレンが悲しそうな顔でサリバンの部屋にやってくるとヘレンはキスをしようとした。言うことを聞かない子にはキスしないと伝えるとヘレンはヴィニーが悪いと主張し怒りが込み上げ叩いたり蹴ったりし始めた。サリバンはヘレンによく考えてみるように言い、ヘレンをひとりにしておいた。ヘレンはサリバンの助けを借りて「ひっかいたり蹴ったりして悪かった」とヴィニーに謝りに行った。ヘレンはヴィニーからのキスを受け入れ、愛情深さと柔和さを学んだ。

1887年9月18日

ヘレンは600個もの単語を習得した。だからといって、いつもそれらのことばを正しく使うというのではない。ヘレンの文章はわかりにくいことがある。はっきりした形になっていない考えをあいまいなことばで表現しようと必死だった。彼女は話そうとする欲望がとても強く、自分の使える言葉で自分の言いたいことの意味を伝える才能がとても豊かだった。

◎あわせて読みたい本◎

●『わたしの生涯』ヘレン・ケラー/角川文庫

幼い頃、聴力と視力、言葉を失ったヘレンを、サリバン先生は暖かく励ました。ハンディキャップを克服すべく博士号を受け、ヘレンは「奇跡の人」となる。

●『奇跡の人ヘレン・ケラー自伝』ヘレン・ケラー/新潮文庫

三重苦の彼女は、サリバン先生の愛に導かれ「ことばの世界」に目ざめる。知的好奇心に満ちた日々を綴った若き日の自伝。



●「子どもたちの階級闘争」 フロークン・フリテンの無料託児所から」 フレイティみかこ/みすず書房



目次

はじめに 保育士とポリティクス I

I 緊縮託児所時代 2015-2016

- リッチとプアの分離保育 6
- パラレルワールド・ブルース 16
- 子どもたちを取り巻く世界 1 貧困ポリノ 27
- オリバー・ツイストと市松人形 32
- 緊縮に唾をかけろ 43
- 貧者分断のエレジー 52
- 子どもたちを取り巻く世界 2
- RISE—出世・アンガー・蜂起 62
- ウル・モンスターと地上の星々 67
- ふぞろいのカボチャたち 77
- クールでドープな社会変革 88

ギャングスタラップ児とムスリム・プリンセス 99

天使を憐れむ歌 109

コスプレと戦争と平和 120

託児所から見たプレグジット 132

子どもたちを取り巻く世界 3 フットボールとソリダリティ 143

ターキッシュ・ホリデイ(トルコの休日) 147

フードバンクの勃興とわれわれの衰退 157

ザ・フィナーレ 笑い勝つその日のために 169

中書き 181

II 底辺託児所時代 2008-2010

あのブランコを押すのはあなた 186

フューリーより赤く 191

その先にあるもの。 196

ゴム手袋のヨハネ 201

小説家と底辺託児所 206

神の御使い 211

母獣。そして消えて行く子供たち 210

故国への提言—UK里親制度って、結構ボロクスだよ。 221

白髪のアリス 226

炊事場のスーザン・ボイル 231

ロザリオ 236

たどり着いたらいつもどしゃ降り 242

愛のモチーフ 247

マイ・リトル・レイシスト 252

ブライトン・ロッカーミテキシーとベッキーと、時々ミッキー 257

もう一人のデビー 267

人種と平等のやもや—インクルージョン 272

ある追悼 277

おわりに—地べたとポリティクス 281

初出一覧

I 緊縮託児所時代 2015-2016

■リッチとプアの分離保育 6■ 久々に行った当該センターは、現保守党政権が進めている緊縮政策の煽りで、公的資金援助を絶たれ、地域の人々のために行われていたさまざまなコースを運営できなくなり、1ポンドで提供していたランチも週の半分しか出せなくなり、付設託児所も週3日、午前中のみしか運営できない状況になっていた。玩具や本は4年前と同じものを使っていた。わたしは底辺託児所、改め、緊縮託児所に戻ってきた。

■オリバー・ツイストと市松人形 32■ 底辺託児所時代には、親たちはみな子どもを取り上げられないように戦っていたものである。それが、緊縮託児所の親たちは手放そうとしている。「決して親たちが薄情になったとかいうことではない」「親が、もう踏ん張れなくなっている」ここ数年、貧困区の家、特に移民や障害を持つ子どもの家庭を支援してきたチルドレンズ・センターのような公的施設の閉鎖や規模縮小が相次いでいる。国家が緊縮政策という「社会への投資削減」を行うと、最も追い詰められるのは底辺家庭だ。

■ザ・フィナーレ 笑い勝つその日のために 169■ 託児所は7月に夏休みに入ったままふたたびオープンすることもなく閉鎖になった。託児所には食品会社の倉庫のようなスチール棚が並べられ、野菜や缶詰やパンや日用品がずらりと並んだフードバンクに変わった。小さな子どもの手を引いてフードバンクに来る人がけっこういる。彼らの親が食料品をもらっている間、退屈している子どもたちを庭で遊ばせている。最下層の子どもたちに未来を与えるために作った託児所が、彼らをいま生きさせるための食糧庫に変わってしまった。でも、彼らの親たちがフードバンクに並んで尊厳をへし折られ、棚から食品をわしづかみにしてビニール袋に入れている間、子どもたちは楽しそうに笑ってくれている。笑っている限り、私たちは負けていないのだ。

II 底辺託児所時代 2008-2010

■ロザリオ 236■ ロザリーはブライトン大学で小学校幼稚部教諭になるために学んでいる。ロザリーの母親はヘロイン中毒だったそうで、父親はDVで刑務所から出たり入ったりし、年老いた祖母が、託児所に預けにきていたという。「そのばあちゃんがまた、盗品を売りさばいて金儲けしてたストリート・ギャングの元締めで、警察がしょっちゅう家に出入りしていたから、ソーシャルワーカーがあの子を取りあげに来たことがあった。母親が病院から出てくるまで、アニーがあの子を引き取って面倒見たんだ。昔はね、こういうことを許す、情のあるソーシャルワーカーもいたんだよ」「アリス、やめなさい」そう言いながら、噛みつかれた子を抱きしめようと手を差し伸べたロザリーに、びくっとしてアリスが身を縮める。被虐待児の特徴である。「そうやってびくびくすると、それが気に障ってもっとあなたを叩きたくなる人たちがいるから。叩かれたくなかったら、堂々としていなさい。とても難しいことだけど、ずっとそう思ってそうできるようにしていると、そのうちできるようになる」ロザリーはきっとその祈りを全うするためにここに戻ってきたのである。

■おわりに—地べたとポリティクス 281■ あなたたちはダメなのよ、屑なのよ、どうしようもないのよ、とわたしは思うのよ。の、その先にあるもの。についてわたしはずっと考えていた。愛かな。違う。時を経て託児所に復帰し、フードバンクに変わり果てたその部屋を見たとき、わたしはそこからなくなったものがはっきりとわかった。それは、アナキズムと呼ばれる、尊厳のことだった。アナキズムこそが尊厳だったのである。底辺託児所と緊縮託児所は地べたとポリティクスを繋ぐ場所だった。だけどそれは特定の場所だけにあるわけではなく、そこらじゅうに転がっている。地べたにポリティクスは転がっている。

『世界のともだち キューバ』 27

“野球の国のエリオ”

写真・文 八木虎造/偕成社



エリオはサンタクララに住む4年生。両親、妹と街はずれの団地に住んでいて、団地にくらすみんなは家族のよう。漁師をしているお父さんは、いちど漁に出ると3日は家に帰って来られませんが、お母さんや団地のみんながいつもやさしく見守ってくれるので、そんなに寂しくありません。エリオは野球が大好き。将来はキューバ代表の野球選手か、漁師になるのが夢です。宝物は、グローブと、お気に入りの選手が打ったホームランボール。家の居間にかざっていつも眺めています。キューバでは、スポーツの中でも野球が大人気。子どもたちはいたるところで野球をして遊んでいます。キューバ代表の野球選手は、国の英雄として、人びとから尊敬され、子どもたちのあこがれの存在でもあります。サンタクララは、キューバの真ん中にあり、1950年代におきたキューバ革命で活躍したチェ・ゲバラのお墓がある街で有名です。街中いたるところに彼をたたえる壁画や銅像があって、世界中から観光客があつまります。朝6時。エリオはお母さんから牛乳が入ったほにゅうびんを渡され、全部飲み切ったら1日が始まります。朝ごはんを食べ、制服に着がえ、最後に

スカーフにコロンをつけていいかおりになったら学校へ出発です。近所の家をまわり、朝のあいさつをするのが日課です。「おはよう！」とキスをかわすのがキューバ式。いつも8軒くらいの家によりながら学校に向かうので、学校に着くまで1時間はかかってしまいます。10時頃のおやつ休けいと12時過ぎのお昼ごはん休けい以外は、午後4時過ぎまで、休み時間はありません。担任の先生の合図でだいたい30分おきに勉強する科目をかえます。教科書は何年も前からあるものをゆずりうけ、前に使っていた人のいたずら書きや、やぶれてしまっている部分は、テープで直したり、カバーをかけたりして大事に使います。みんな勉強が大好きで、先生の質問につきつぎと手をあげて答えます。エリオが得意なのは算数です。キューバの小学校は授業の時間が長い上に宿題も多いので、平日は家に帰ってもたくさん遊べません。でも、エリオたちは、すくない遊びの時間をおもいきり楽しみます。キューバは、外国からあまりものが入って来ないため、電化製品はもちろん、洋服やサンダルもなかなか買うことができません。50年以上も前の車を運転している人も、めずらしくありません。でも、新しいものを簡単に手にできないかわりに、修理する技術を持っています。なかでも、お父さんは修理の天才です。おやつはいつもお母さんの手作りです。いちばん好きなおやつは、お母さんが作るプリンです。社会主義であるキューバでは、食べものは国全員にいきわたるようになっていて、家も用意されています。ものはあまりありませんが、全員が毎日楽しくくらすようにと、政府も人々も、みんながくふうしているのです。そんなキューバの陽気な野球少年の日常を是非のぞいてみてください。(要約：K.M.)

『世界のともだち エチオピア』 28

“ナティはたよれるお兄ちゃん”

写真・文 東海林美紀/偕成社



エチオピア北部、標高2000メートルの山の上にある町、ゴンダール。ここは、エチオピア帝国の首都でした。当時のお城や宮殿が残り、石畳の道路や緑が美しいこの街に13才のナティは住んでいます。ナティは4人兄弟の一番上のお兄ちゃん。お父さんは靴の修理屋さん。お母さんは料理が得意で、近所のレストランで働いています。でも、まだ小さい赤ちゃんがいるので、家の仕事も大忙し。ナティと妹がお手伝いを頑張っています。ナティはテレビや映画をみるのが大好きで、家にいるときはお手伝いをするか、ずっとテレビの前にいます。そして、英語を話すことが得意です。小さいころにおじさんが教えてくれて、あとは英語の映画をみて自然におぼえました。電化製品を直すことも得意で、使わなくなったテレビのアンテナやラジカセを集めるのが大好き。そんなナティに、学校の物理の先生が、電化製品を修理する方法を教えてくれたのです。それで、機械のしくみをすっかりおぼえてしまいました。空手も好きで、将来の夢は、アクションスターになることです。太陽

のぼり明るくなってくると、1日が始まります。まず、ふとんをたたみ、水道のある庭へ出ます。顔を洗って歯をみがき、部屋のそうじをしたら、朝ごはん。妹たちと遊んであげることも忘れません。ナティの小学校は生徒数が多くて教室の数が足りないのので、午前中のみ授業がある週と、午後のみ授業がある週が交互にやってきます。特別な事情で進級できない人もいるので、クラスの年齢はさまざまです。エチオピアでは1年生から英語の勉強が始まり、7年生になると、国語以外、全ての授業が英語で行われます。ふだん友だちと話す言葉はアムハラ語です。アフリカのほとんどの国はヨーロッパの国に植民地化された歴史をもちます。しかし、エチオピアは最後まで独立を守った国のひとつで、むかしの文化がいまでも色濃くのこっています。アフリカでもっとも古い歴史をもつ国です。ひとつの国の中に80を超える民族がいるので、それぞれが異なる言葉や文化を持っています。ナティの住む北部では、古くからキリスト教が信仰されてきました。独自の発展をとげたエチオピア正教の教えで、いまでも岩でつくられた教会できびしい修行生活を送る僧がいます。時間の数え方も日本とは違い、暦もエチオピア暦という独自の暦を使っているのので、日本で使っている西暦(グレゴリオ暦)とは7年9か月もずれています。毎年、9月11日か12日がエチオピアの新年です。独特の文化と雰囲気の中、笑顔いっぱいにぎやかに暮らすお友達の日常が描かれています。

(要約：K.M.)

□世界を通過中② ～凍った納豆～

日本人の乗っている船の朝食はご飯とみそ汁が多い。昼は丼物や麺類、夜は肉魚がメイン。娯楽の少ない船上では食べることは楽しみのひとつ。しかし長期航海後の入港前ともなると様々な食材がなくなってくる。特に葉物野菜は持ちが悪い。晴れて入港し、食料の積み込みが終わると、翌日の食事からはたっぷりの野菜や果物がお皿に盛られてくる。なんともフレッシュな気分させてくれる。■日本に寄港した際には納豆など、日本でしかなかなか手に入らないような食材も積み込むことができる。今朝も早速、朝ごはんには納豆が出てきたものの、未だ凍っていて箸が通らなかった。日本では冷凍した納豆など目にする機会も少ないかと思うが、意外と賞味期限の短い納豆は、船の上での保存はもちろん、積み込まれる段階で冷凍されてくる。特段、冷凍用の納豆という訳でもなく、普通の納豆を冷凍しただけなのだが、おかげでしばらくは納豆が食べれる。納豆を冷凍してまで食べるのは海外駐在員か船乗りくらいではないかと勝手に思っている。それでも流石に凍ったまま食べる人は居るまい。■船内で食料を保管する冷凍室は、大型貨物船の場合は大抵どの船でも肉、魚、野菜と3つの冷蔵・冷凍庫があり、+5℃や-20℃くらいに維持されている。この冷凍機の保守管理も機関士の仕事だ。冷凍庫の大きさは様々だが本船の場合は、肉・魚庫は6畳ほどの広さだろうか、野菜庫は10畳程度の広さがあり、野菜以外にも牛乳などの飲み物や、卵、解凍中のお肉などが置かれている。入港前には在庫も少なく寂しくなっていた冷蔵庫内も、積み込みが終われば、これから一航海で使う食材が所狭しと積み上げられている。■意外と知られていないかもしれないが、船に積み込まれる食料は日本はもとより、他の外国においても、“国外”で消費されるものとして免税扱いになる。お酒もしかり、船では免税で酒タバコが買える。とは言っても、船内に売店がある訳でもなく、船の食材と合わせて、個人の嗜好品を“船食屋”と呼ばれる食材業者に入港前に連絡したうえで手配してもらうのである。しかし昨今、アルコール管理も厳しくなってきたて振って飲んでます！と言い難い雰囲気がちょっと気になる。特にコロナ禍においてはもはや大人ですらこそこそ飲酒せねばならないような雰囲気はいや別に感染対策をしていれば隠れる必要は全くないと思うのだが何とかならないものか。■話を少し戻すと…本船の調理担当はフィリピン人3人、役職としてはチーフコック、セカンドコックとメスマン。3人で船内30名程度の朝昼晩三食と時々おやつ(パンやドーナツなど)を準備してくれている。フィリピン人と言えども、乗組員のお国柄を考慮して、日本人には日本食、インド人にはインド料理、フィリピン人にはフィリピン料理を提供してくれる。時々おかしな無国籍料理(日本食もどき?)が出てくることはご愛敬!? (うどんにチャーシュー、ラーメンにお揚げみたいな) そういえば、ギャレー(調理場)で前出のフィリピン人3人が調理中はいつも陽気な音楽を流しながら働いている。寄港する国々で現地の食材を仕入れたり、一緒に乗っているインド人やフィリピン人の食べている料理をつついてみたり、食文化を通して世界を見るのもまた面白く美味しい経験である。2022年2月某日

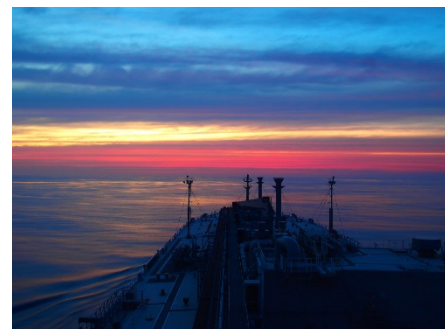
●博信さんからの VOICE ■(下記のカラー写真はぜひホームページで御覧ください)



【パーティーの食事】



【晴れと雨】



【ある日の夕焼け】

□夫婦で行く「日本百名山」完登を目指して① ～会津朝日岳 1620m～

再び山登りを始めたのは28年前50歳の夏、北アルプス北部白馬三山(白馬岳 2932m、杓子岳 2812m、鎗岳 2903m)を2泊3日テント泊で妻と二人出かけてからで山から遠ざかって22年振りであった。大雪渓を重荷に喘ぎ、テント場まであと少しというところで小休止のつもりが1時間近く眠り込んでの大休止となってしまったこと、2日目のテント場鎗温泉小屋 2100m絶景の温泉浴、3日目の鎗温泉からの下りで右足を踏み出した時、何の前触れもなく右膝がガクッと折れ、踏ん張ることができずに前のめりのまま転倒、危うく谷側に落ちそうになったことなど鮮明に思い出す。以来「夫婦で行く日本百名山」を目指し今に至る。2019年8月、98座目南アルプス塩見岳 3052mを最後に、2020年に行く予定であった残る2座、中央アルプス空木岳 2864m、北アルプス穂高岳 3190mはコロナに阻まれ行けていない。そんな中、石川さんから夫婦で行く山登りに関する原稿依頼があり昔のメモと記憶を頼りに書いてみようと思い至った次第である。以下は2013年10月13日～14日に行った日本200名山会津朝日岳の山行記録である。

【会津朝日岳 1620m】

「日出ずる国」は「朝日がのぼる国」という日本の美称であるが、麓の集落から見て最初に朝日があたることから「朝日岳」と呼ばれる山が日本にはいくつあるのだろうか。全国各地に多数あるらしいが Wikipedia では14座(北海道1

<<千の声 VOICE>>

座、本州10座、九州3座)あり、我々が登っているのは本州10座の内5座であった。北海道は札幌市南区 598m、九州は福岡県添田町 613m、大分県佐伯町 343m、鹿児島県出水市 617mでいずれも行くチャンスは無かったが、本州では山形県朝日連峰大朝日岳 1,870m、福島県只見町会津朝日岳 1620m、栃木県那須連山朝日岳 1896m、富山・新潟県境北アルプス北部朝日岳 2418m、富士山八峰朝日岳 3730m、を登っている。乗鞍岳朝日岳 2975mは乗鞍主峰剣が峰 3026mへの手前にあるが登山道が無く行けない、秋田県羽後朝日岳 1,376m、群馬県上越朝日岳 1945m、山梨県奥秩父 2579m、静岡県川根町 1827mの5座は未登である。上越朝日岳はチャンスがあれば行きたい山の一つである。

タイム:工事現場駐車場 6:45、いわなの里 7:05、三吉ミチギ 8:40、人見の松 9:40、避難小屋 10:50、山頂 11:50~12:40、大クロベ 14:00、三吉ミチギ 15:00、いわなの里 16:05、駐車場 16:25

【10月13日(日)】

以前何かで“会津朝日岳の紅葉は素晴らしい”とあるのを読み、一度その時期に是非行ってみたいと思っていた。例年になく早い梅雨明けで始まった猛暑の夏も終わろうとする9月上旬、気温も低くなり朝晩の冷え込みが今年の秋の紅葉を保証しているかの様に感じ10月12日(土)~14日(月)の連休に行こうと決めたのである。しかしながら、天は味方せず以降残暑、台風、竜巻、豪雨と続き10月に入っても夏日が各地で観測される始末であった。それでも天気予報とにらめっこしながら、只見では「この連休、それも14日だけが好天になる事」を確認し、13日(日)午前10時過ぎに家を出発。関越小出で降り252号線を田子倉湖・只見方面へ。連休、好天ということで渋滞にはまりゆっくり来たせいもあるが、自宅から310km今夜の宿只見町青少年旅行村キャンプ場に着いたのは夕方5時を回っていた。只見駅近くのスーパーで夕食と明日の食料を仕入れ、満天の星空の下カミサンとおしゃべりしながらハンバーグとワインを楽しんだ。

【10月14日(月)】

4時半起床の予定が1時間も寝過ぎてしまった。晴天のはずの天気も霧で視界が悪い。簡単な朝食を取り登山口に向けて289号線を走る。会津朝日岳登山口・いわなの里の標識で右へ、キャンプ場から50分ほどで行き止まりの工事現場に着く。実は2011年7月の豪雨災害により黒谷入からいわなの里までの道が土砂流出に埋まってしまい、復旧工事を進めてはいるもののまだ完成していない。そのため登山口まで車で行くことはできず、登山道を整備できないとして只見町は現在も「登山禁止」としている。実際、車の通行は無理な状態であった。左側に運よく駐車スペースがあり、そこに駐車していわなの里まで約2km程歩くことにする。道路右側に既に3台の車があり登山禁止の山に我々だけではない事に妙に安心する。崩れた林道を20分程で荒廃したいわなの里に着いた。除雪車や壊れかけた乗用車、ブルドーザーが無残に放置されていた。赤倉沢登山口標識を過ぎ、沢を飛び石伝いに対岸へ、雑木林の中、何回か沢を渡り三吉ミチギと看板がある水場に着く。やはり3年間の登山禁止でコースは荒れていて、以前は2カ所ほど橋があった様だが流されて今は無い。道は僅かに見えるものの胸ほどのヤブの中、朝露でビッシリである。やっと瀬音が聞こえなくなり、ブナ原生林の中、道は九十九折になり高度を上げて行く。1時間で人見の松、視界が開け北西方面の奥会津の山並み眺められ一服する。尾根道を辿り、叶ノ高手を過ぎると下り道となる。途中朝日岳の大クロベという檜科の巨木が2カ所にあり道はなおも下り非難小屋の横に出る。この辺りは熊ノ平というところで地図には水場のマークがあるが判らなかった。ここで3回目の休憩を取り、いよいよ最後の頂上までの登りになる。歩きだしてすぐに、今日初めての登山者と出会った。単独の60歳くらいの男性で、あと4人上にいる事を教えてくれた。30分ほどで下山して来る4人とも出会い、後から登って来る人が居なければ、今日の入山者は我々を含め7人という事になる。頂上直下のスラブ状の岩場と草付きガレ場の急斜面を切れかけたロープを伝ってなんとかピークらしき岩場の上に出た。しかし頂上の標識が見当たらない。予想通りの好天に恵まれ絶景のピークに立ったと思ったら少し先の木々の間に標識らしきものが見えるではないか、やはりこちらが頂上で立派な山名表示盤があり三角点もあった。驚いたことにその表示盤には「東京東雲山岳会」と記され昔よく交流した大田区の山岳会のものであった。こんな大きなモニュメントをそれも丹沢あたりならいざ知らずこの福島の山奥に担ぎ上げたとは…。心地良い陽射しの中、360度の眺望と他に誰もいない山頂でドリップの香りを楽しみながら飲むコーヒーは格別の味がして、今回の会津朝日岳は紅葉を除けば期待通りの山であった。●哲彦さんからの VOICE■



左:会津朝日岳山頂 1620m
手前:浅草岳、奥:守門岳

右:大クロベの木

□『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』(ブレイディみかこ/新潮社)

～学生時代のイギリス・ロンドンホームステイの記憶とともに～

家内(とその友人)からの薦めもあり、遅ればせながら、本書を手にとった。本書は、著者の息子(名門小学校時代には生徒会長を務めるなど優等生とされる)が、あえて進学した元底辺中学で遭遇する差別、格差、ジェンダー問題などを目の当たりにしながら、自分自身を見つめ・考え、成長していく様を、母親から見たノンフィクション作品である。いまの英国、そして世界が抱える問題が、そのまま「子どもの世界」である学校においても、例外なく映しだされている様子がうかがえ、中学校生活としては、なかなかハードな一面が描かれている。

個人的なことであるが、20年近く前に、イギリス・ロンドンに数週間、ホームステイをしたことがある。よく言われていることかもしれないが、ショックを受けたのは、英国では、階級社会意識が無意識に人たちに浸透していて、それを何気なく普段の生活のなかで意識せざるを得ないことだ。

あるとき、友人のホームステイ先に遊びに行った時に、ホストファミリーから「どこにホームステイしているのか？」と聞かれ、何気なく、ホームステイ先の住所を伝えたことがある。「その住所だとビジネスでホストファミリーをしている家だね、食事さえないでしょう。結構大変な家にステイしているね。貴重品管理はしっかりね」、友人のホストファミリーの反応がなかなか衝撃的だった。要は、余っている部屋に学生をホームステイさせることで得た収入を生活の糧にしているということで、まさにホームステイを受け入れる商売をしているということなのである。(「貴重品管理はしっかり」という最後の一言は余計としても、おそらく悪気はなく、現実を率直に伝えてくれたのだと思うが…。)確かに、食事については置いておくからレンジで温めて食べておくようにだとか、飲み物は冷蔵庫から適当に飲んでと初日に言われ、一緒にリビングで過ごす、休日に一緒に出かけるなど想像をしていたホームステイとは全く異なっていた。ただ、それは老婦人の家にホームステイをしたので、そうゆう家にホームステイしたと思ったのだが、どうやら私の美しい誤解だったようだ。一緒にホームステイをしていたミュンヘンから来たドイツ人も、ある朝、牛乳を飲もうとしたところ、においに異変を感じ、「冷蔵庫にある牛乳は絶対に飲まない方がいい、そもそもこの家で出される食事はひどすぎる」と悪態をついていた。

いまでははっきりとはわからないものの、本書にも登場する、元公営住宅地区のようなところだったのだろう。ハムステッドという、ロンドン中心部からそう遠くない高級住宅地にあるホームステイ先ではあったが、周りにあるようなバックヤード付きの家でもなかったし、レンガ積みの洒落たタウンハウスのような感じもなく、無機質な形の低層の集合住宅地だったことを考えれば、なんとなく合点はいく。

自身としては、中高一貫の私立男子校という、かなりおおざっぱながらも、ある程度均質化された世界で6年間を過ごしたのちに、こんな体験をしたがゆえに、却ってショックが大きかったのかもしれないが、あのまま「学校で学ぶ、親から学ぶ」だけでは、世の中で起きている現実の一側面をこのように実感することはなかっただろう。

本書の話に戻れば、中学生という多感な時代に、社会の縮図ともいえるようなハードな学校生活を通じ、社会が抱える難題・課題を体験する(解決するかどうかは別として)ことは、何物にも得難い経験に違いない。そしてなにより、著者であり母親が、中学生の息子が学生生活を通じて感じる難題・課題と一緒に考え、あたたかく見守る様子が素晴らしい。

まだまだ年長の長男がこんな体験をするのはかなり先の話になるが、多感な時期にさしかかったら、ぜひ読んでみてほしいと思える1冊だった。著者のように、向かいあって伴走するように一緒に考えられるかははなはだ疑問・・・

(2022年2月某日)●基さんからの VOICE ■

◎あわせて読みたい本◎

●『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー』 ブレイディみかこ/新潮社

大人の凝り固まった常識を、子どもたちは軽く飛び越えていく。世界の縮図のような「元・底辺中学校」での日常を描く、落涙必至のノンフィクション。

●『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー 2』 ブレイディみかこ/新潮社

13歳になった「ぼく」の日常は、今日も騒がしい。心を動かされる出来事を体験するたび、「ぼく」は大人への階段をひとつひとつ昇っていく



□石川塾へふたたび ～入塾のタイミング！？環境を与えられるのは親だ～

子供が産まれたら絶対に石川塾に戻ってこよう！と思い、今年で年中になる娘とようやく体験にやってきました。私が以前石川先生に教わっていた当時と変わらず、たくさんの生徒さんが暗唱したり自習する教室はなつかしく、ミツキ先生という頼もしい先生に教えて頂くことになり、娘は目を輝かせていました。小学生と一緒に勉強ができると知った娘は自分もお兄さんお姉さんと同じことを学んでいる気分でもとても満足そうでした！私は「思ったとおり！喜んでくれたぞ」と心の中でガッツポーズ。幼児の頃から自分の意思がはっきりしている娘には、常に私が何でも決めるのではな

<<千の声 VOICE>>

く、自分がこうしたいという気持ちを尊重し、習い事や幼稚園選びも本人がしたいと言うものを聞いて決めてきたのですが、裏側では石川塾が好きになるタイミング?!を見計らっていたのも事実なので(笑)娘が楽しい!また行きたいと言ってきてとても嬉しかったです。決めるのは本人でも幼児期に良い環境を探してみせてあげることは親ができる子育てのひとつだと思っています。石川塾ではわからない言葉や知らない動物などが出てきたら、すぐに辞書や図鑑で調べることが当たり前だと思いますが、幼児のうちからこうした学び方を身体で覚えていくと、調べることを楽しみながら自分の知識に蓄えていくことができるので、興味も横へと広がり、ますます勉強が好きになれると思います。4月からの成長が楽しみです。●まゆみさん(年少)のお母さんからの VOICE■

□2023年 志望校合格を目指して④ ～生物部のある私立中学男子校受験の記～

【いよいよラストイヤー突入!】

小学6年生になり小学校生活もラストイヤーです。小学2年生の時、友達のお姉さんお兄さんが中学受験に備えて勉強している姿に憧れて「僕もしたい!」と始めてこれまで約3年間。そして、大手進学塾を退塾し、石川塾でお世話になり、6月で1年が経ちます。この3年間、良い意味でも、悪い意味でも毎日息子との闘いの日々です。息子も色々な経験を通して成長していますが、親である私たち夫婦も沢山の成長と学びの機会があります。泣いても笑ってもあと9か月。志望校合格、そしてこの中学受験に悔いなし!と堂々と言えるよう過ごしていきたいです。

【反抗期と中学受験】

見事にかぶりました、反抗期。小学5年生の後半からチラチラと見え隠れしていた反抗でしたが、遂にガチ反抗期に突入です。元々、何か言えば言い返してくる子ですが、それでも親が言うことは行っていました。最近では、倍にして言い返す&親のアドバイスを聞かない。ひどい時はアドバイスと逆の事をします。本当に憎たらしいですよ(笑)。4月に入り、塾でも新しい時間割が始まりました。色々な中学校の過去問を模試形式で解いていくという内容です。息子の弱点の一つは「時間」に関して意識が低いこと。制限時間内に緊張感をもって集中して問題と向き合う。塾長が提案してくださったこの時間割は息子の更なる成長につながっています。だんだんと正答率も上がり、時間を意識することが出来るようになっていきます。そして、どの分野を強化していく学習が必要なのか具体的に見えるようになりました。塾で学べる時間は限られているので家庭でもフォローをしていく必要があります。ですが、ここで反抗期が邪魔をするのです!塾長が教えてくださったやり方を伝えてもやらない!口答え!狭い家の中を逃げる!!塾での様子を伺うと「素直な子ですよ。」との事。嘘でしょ!?家での姿は母への嫌がらせ?はたまた挑発?大切な時期だからこそしっかりとみてあげないと...と思っていたのですが、その考え方は今の息子には合っていませんでした。塾長からも「少し距離を置き、彼を信じ彼に任せる時期かと...」とアドバイスをいただいたので病む前に思い切って距離を置くことにしました。距離を置き始めてから数日後、息子がこれまでの事を謝ってきました。意外でした。「キツク言うつもりはないんだけど、ついつい言ってしまっでごめんなさい。自分でも分かっているけど...やらない自分に僕も嫌気がさして。僕の弱い所です。」と。単に生意気で、反抗して親へ鬱憤を晴らしているだけだと思っていた。自分の弱い部分を一番わかっているのは息子自身でした。自分が分かっていることを親につつかれることが反抗の理由の一つだとわかりました。現在でも口答えと反抗は続いています...でも、時間が経つと必ず謝ってくるようになりました(笑)謝られると赦すしかないですね。はじめは自分の子育ての何を間違ったのだろうかと考えたり、主人に話を聞いてもらったり。キレそうになる自分に、私ってこんな性格だったのかとガッカリしたりしていました。少しずつですが口答えも反抗も成長過程のひとつなのだと私自身も受け入れることが出来るようになってきました。

【模試スタート!】

4月に1回目の合判模試を受けました。結果は第一志望校へは合格圏外でした。しかし、今回は場所の雰囲気や呑まれ実力が発揮できない息子が良い緊張をもって自分の力を発揮することが目的でした。実際に私立中学校の教室でテストを受けます。この環境が息子に火をつけました。緊張どころか綺麗な校舎に興奮し、こんな学校に通えたらいいな~という気持ちになったそうです。楽しんでテストを受けることが出来、本人は大満足でした。

【心の栄養剤】

息子のみならず、私自身も精神的にサポートしていただいています。気軽に話を聞いてくださる先生達なので、色々な感情や出来事を飾らずに打ち明けることができます。思い詰める前に悩みを何でも吐き出すようにしています。その環境があるということにとても感謝しています。

親も子もこれからが徐々に負荷がかかる時期になってきます。親子で度々心の栄養剤を補充させていただきながら進んでいきたいと思っています。ですから、先生方も私と息子に栄養を取られすぎないように(笑)!

●シンペイ君(小6)のお母さんからの VOICE■

◎石川塾の新しい国語教科書◎

●『齋藤孝の小学国語教科書 全学年・決定版』 齋藤孝/致知出版社

読解力、考える力、語彙力、漢字力、文章力を身につける!最高レベルの日本語の教科書!



●4月3日(日曜)鎌倉逗子ハイランドさくら道:(※雨天のためコース変更)

■9:30 江ノ電長谷駅集合～裏大仏ハイキングコース～源氏山公園(おやつ休憩)～化粧坂～小町通り～若宮大路～鶴岡八幡宮～衣張山ハイキングコース～鎌倉逗子ハイランドさくら道(お昼)～報国寺～鎌倉霊園(休憩)～16時頃 JR 北鎌倉駅解散～

●華は石川塾の遠足が大好きですが、4歳の息子がすぐにおんぶや抱っこをねだり、自分で歩けないと駄々をこねるので、勇気が出ず、遠足はいつも私と華だけで参加していました。ちょうど今家族で観ているNHKの大河ドラマの舞台が鎌倉ということで、華も鎌倉に興味を持っていて、今回も母娘で参加しようと楽しみにしていました。息子も年中になるので、そろそろ歩く力と根性がついて欲しい、そう思っていた時、塾のお友達の下のご兄弟も参加するので息子も一緒に参加してみても、と誘っていただきました。これは良い機会になるかもしれないと思い、母子3人での参加となりました。天気は生憎の雨と4月らしからぬ冬並みの気温でしたが、お昼ご飯にお好み焼きが食べられると聞き母娘はお好み焼きを楽しみに、電車好きの息子は初めて江ノ電に乗れると、やる気満々で塾生仲間と合流し鎌倉へ向かいました。江ノ電の運転席の後ろで子供達が陣取って乗っていると、親切な地元の方が途中で路面電車になる区間があること、海が見えるポイント、車庫などを教えてください、興味津々でした。一人で乗っていたら見逃してしまいそうなことに気づかせていただき、子供の頃の何でも新鮮だった感覚を思い出し私にとっても楽しいひと時でした。江ノ電長谷駅に到着すると、予報通り雨が降っていたので徒歩1時間程度の鎌倉駅がゴールのコースに変更。小学生のお兄さんお姉さんは雨にも負けずどんどん前へ前へと歩き続けます。心配なのは息子でしたが、みんなで頑張って歩こうという雰囲気伝わったのか、レインコートを着てかなりゆっくりとしたペースですがテクテクと歩いて行きます。途中エネルギー切れでペースダウンしましたが、糖分補給でグミを頬張ると元氣復活しました。普段なら疲れて動けなくなるとしようがなくおんぶしていましたが、おやつの効果的な使い方を私も学びました。そしてついにゴール！本人も一度もおんぶをしなかったことに驚いたようで、「最後まで歩けちゃった！」と喜んでおり自信がついたようです。

●ハナさん(小2)のお母さんからの VOICE ■

●本日は「鎌倉逗子ハイランドさくら道」のハイキングでした。しかし朝から雨それも冷たい雨です。ミツキ先生から



朝ラインで雨なので無理をしなくて良いと連絡があり、天気予報は曇りで午後15時以降が雨とあったけど、私は晴れ男なので安心して出かけました。しかし長谷駅前には誰もいないので一瞬中止に成ったのかと思いましたがみんなはコーヒESHOPで時間待ちをしていました。子供たちは雨でもやる気満々で元氣な笑顔です！雨でもさすがに鎌倉は観光客が多く傘をさしているの歩きにくく、長谷の道は狭くて歩く子供たちのペースもまちまちなので凄く長い列に成り、みんなが集まっては進むと言う感じで歩き始めました。本当は鎌倉の尾根道を歩く予定だったそうですが、足元が悪く危ないので道路沿いの歩道を歩きました。鎌倉はトンネルが多いので、雨宿りを兼ねてそこで遅れている子供を待ちました。

雨では外でランチというわけにもいかず、鎌倉駅前のお好み焼きの「津久井」へ予約したおかげで一番に入る事が出来ました。我が家のお好み焼きとは全然違いますがミツキ先生お勧めのショウガ入りを頼んだらパンチが効いて美味しかったです。ちなみに我が家のお好み焼きは「小麦粉ではなくそば粉でつなぎは宇宙芋をすりおろして入れます」これが凄く美味しい胃にもたれません。宇宙芋は見た目隕石の様なのでこの名前が付けました。今は何処でも種芋を売っています。つる植物でベランダのグリーンカーテンに成ります植え時は4月～5月です。

●リイチロウ先生からの VOICE ■

●5月28日(土曜)森戸川源流を遡る(二子山コース?)行ってきました！

■9:30 逗子駅集合～仙元山～森戸川分岐点～森戸川遡上～二子山～北尾根～東逗子駅※途中帰宅可～あずま湯(リニューアルした綺麗な銭湯?)～17:00 “まつなが”(茶碗蒸し・鶏の唐揚げ・鯛のかぶと煮は必食?)～(夜?)蛍狩り ※途中参加可 19:00 東逗子駅集合～ホテルを見に？

一皮剥けた！遠足前日が雨だったので、下着や靴下などの着替えを用意して下さいと石川先生から連絡があり「どんな道を登るのだろう」と少し不安に思いながら迎えた遠足当日。天気にも恵まれ、まずは石川先生おすすめの大判焼きを目指して出発するかと思います、まさかの閉店。残念だったが、気を取り直して山に出発！結構急な坂を登り、山道へと入って行ったが前日の雨で土が水を含みとても滑りやすかったり、木の根っこもボコボコ地面に出ていてよく見ないと転びそうになったり、山道のすぐ横は斜面になっていたりと、登山初心者の娘はとても怖かったようで、先頭の人達とは大分遅れをとりながら進んで行きました。何度も「もう歩きたくない、帰りたい」と言い、光樹先生やお友達のお母さんに助けてもらいながらなんとか進んで行きました。きっと、お友達と同じように歩く事ができず、遅れをとってしまっていたのも嫌になった要因だったのかな。ロープを使って下る山道も何度も滑りそうになりながらも進んでいき、よ

<<ワークショップ>>

うやくお昼休憩。ここでようやく娘に笑顔が少し戻りホッとしました。けれど、また再開したら嫌だっとなるんだろうなと少し憂鬱な気分で登山再開。20分ほど川の横を通って進んで行ったのですが、一度靴が濡れたらそのままジャブジャブ川の中を靴で歩いたりしていました。川で楽しみを見つけられたからか、お昼休憩後は人が変わったようにスイスイと進んで行き、大人の手を借りる事なく石川先生に付いて行けていた姿に驚きました。1日で娘の成長が見られ、光樹先生からも「一皮剥けたねー」と言ってもらえて娘も嬉しそうでした。この遠足でできるようになる喜びを娘に感じてもらえてよかったです。下山後は、銭湯に行き汗を流してから夕飯を食べました。その後は川に蛍を見に行き、初めての蛍に「あっ、あそこにもホタルいたー！」「今〇匹見つけたよー！」と楽しそうに蛍鑑賞をしていました。登山にお風呂に蛍にと盛りだくさんで、朝から夜まで目一杯楽しんだ遠足でした。●ユイカさん(小1)のお母さんからの VOICE ■

五月、10才の息子と二人で森戸川遡上遠足に参加した。逗子駅に着くと五年前5才の息子とここに来て初めての塾遠足に参加した事を思い出した。今回は14名のチーム。石川先生とミツキ先生に挟まれ平坦な道を進み、葉山教会の急坂を上ると標高130mの仙元山頂にすぐに着いた。振り返ると青い水平線。江ノ島を向こうに三角の帆が無数に浮かび、海の上でひしめき合う。良い眺めだ。スナックのお裾分けを頂き呼吸を整えた所で視界の広い序章は終わった。その先は緑生い茂る鬱蒼とした山道をひたすら集中して歩く長い道のりが待っていた。山は細い道が多く、起伏激しく、すぐ横は崖になっている所があり気を抜けない。木の根が地上に這う斜面は凄かった。殆ど土が見えず、木の根っこで埋め尽くされた凸凹を用心しながら手をかけ足をかけ上る。細竹が両側に茂る道は薄暗く長く、幼い子は先を進むのを怖がっていた。しんどさや虫への恐怖心から泣き言が出てしまう。そこに誰かが声を出し助け合って進む。特に下りは厳しかった。前日の雨でぬかるんだ土に足を取られ私も息子もロープしか頼れない所で転んだ。後ろにいた息子はロープを握ったまま体が逆さまになっていた。一瞬焦ったが、後にいた宮井さんが息子を引き上げて下さり、何とか体勢を立て直しケガなく済んだ。助かった。やっと川沿いに出ておにぎりを食べた後は、森戸川の中を歩いた。靴のまま川に入ると水は冷たく気持ち良かった。頭上の木にリスが歩いていた。五時間の上り下りの疲れが出て頭がぼーっとする。後半は力を振り絞り、先頭の石川先生を見失わぬようついていくのみ。長い下りを滑るようにして東逗子の街中に出た時はほっと気が緩んだ。途中弱音を吐いた息子は、最後は吹っ切れたように先生の背中を見て歩いていた。粘り強くやり抜いた経験は宝だ。



●コウタロウ君(小5)のお母さんからの VOICE ■

●石川塾のワークショップ●5月3日(日)に科学実験ワークショップを開催！ 講師に“縄文・リー”先生をお迎えして“水ライト”をつくり楽しみました！

●初めて参加したワークショップ。GWが始まる前からワクワクが止まらない。連日家族に楽しみを伝えて迎えた当日。大勢のお兄さんお姉さんに混ざってテーブルに座ると気分はもう小学生(笑)部屋が暗くなるといつもは怖がるところがもうスクリーンに夢中で第一関門クリア！アニメーションも非常にわかりやすく、魔女がちょっぴり怖かったとあとで教えてくれましたが…しっかりと観れたおかげで水ライトづくりはバッチリ！銅→炭→紙→マグネシウムの順番をしっかり覚えて、隣の席のお兄さんを真似して、母の手を借りずに作り上げました！ライトが付いて、部屋を暗くしてみんなで一斉に照らした瞬間が何より感動したようです。今年の夏は作ったはくちょう座が空に広がる様子が見えますように！



●マユミさん(年中)のお母さんからの VOICE ■

●私は、水ライトのワークショップに参加して、水ライトの作り方、縄文リー先生の作った動画を見て、いろんなことが学べ、とても楽しかったです。その中でも特に楽しかったのは、水ライトを作り終わった後、部屋中の電気を消し、ちょっと濁った水の入ったペットボトルの下に水ライトをかざすと、とってもきれいだったことです。今でも水ライトが毎日明るすぎるくらい光っています。でも、水につけるとさびが出てきます。もう寿命なのかもしれません。残念です。もう一度作りたくなりました。●セイナさん(小6)からの VOICE ■

◎7月からのワークショップ人体シリーズ予定◎

●7/24:人体の絵本(腹部) ●8/11:臓器Tシャツ(うんち Ver) ●8/21:臓器Tシャツ(おしっこ Ver)

●9/25:頭の地図帳 ●10/23:目の誕生 ●11/27:耳よいな話

どなたでも参加できます！参加希望の方はミツキ先生までご連絡ください！

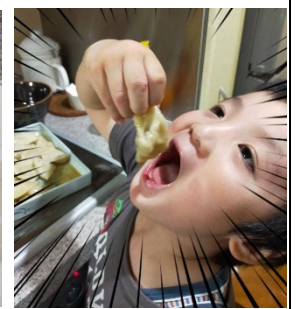
□漫画『コウドリ(23巻 66話)出生前診断』 鈴ノ木 ユウ/講談社

「私たちにはダウン症のある子供は育てられません。」そう言って中絶を決断した夫婦がいた。母体から採血した血液の中に浮遊しているDNAの断片を測定することにより、染色体異常による疾患リスク判定を行う検査である新型出生前診断は、流産のリスクがなく採血だけで13・18・21トリソミーの可能性を診断することができる。染色体異常発覚後の中絶率は96パーセントにも及ぶ。つまり新型出生前診断を受ける人のほとんどは、検査前から胎児になにかあった場合、中絶すると決めているのだ。■妊娠10週の妊婦が出生前診断について尋ねてきた。彼女の義母は昔、ダウン症の娘を1歳の時に亡くしていた。彼女の夫はそのことを初めて両親から聞き、ダウン症や出生前診断について調べた。ダウン症の子供を持つ会社の部長に相談すると、部長の子供は生まれてからダウン症の赤ちゃんだとわかった。初めは周りからの視線を感じたり子どものせいで世間の枠の外に追いやられた気持ちになったという。合併症での手術や、発達の遅れなどからダウン症であることを受け入れられなかったがどんどん成長する息子を見て、ダウン症であろうが自分の子供だから成長や将来を気にしつつ可愛いと思えたそう。一方で幸せと思えない人もいし、障害のある子どもを育てている親は辛い思いをする。だから出生前診断を受けることを悪いこととは思わないというアドバイスを受けた。■病院では遺伝カウンセリングと呼ばれる、遺伝や遺伝子によって起こる病気や体質を分かりやすく情報提供し、心理的・社会的サポートを行うものがある。現在日本には認定遺伝カウンセラー制度があるが、その資格を持っている人は約250人、とても多いとは言えない。■新型出生前診断を受け陽性と診断された場合、羊水検査を行う。羊水検査はお腹に針を刺して羊水を採取するため流産のリスクが伴う。羊水検査で陽性と診断された場合は、染色体疾患だということになる。また、15週以降に行う母体血清マーカーでも疾患を調べることができる。新型出生前診断の費用は21万、羊水検査は15万、母体血清マーカーは2万とかなりの費用が課せられる。■夫婦は出生前診断を受ける前に遺伝カウンセリングを受けることにした。彼女は、出生前診断を受けるか受けないか悩んでいたのだ。出生前診断は病気や障害のある子を諦め、中絶するための検査ではない。検査を受けるか受けないかを決められず出産する人もいし。しかしそれは赤ちゃんのことを一生懸命考えた結果その人が出した結論なのだ。妊娠10週で出生前診断を受けるか悩んでいた彼女は、夫婦で話し合いを重ね新型出生前診断を受けないという選択をした。■認定施設以外のクリニックで出生前診断を受け、陽性と診断された夫婦がやってきた。彼女はダウン症の子供なら産まないと言い張っている。そこで医師は遺伝カウンセリングを勧めた。彼女は仕事熱心で今の仕事を手放すということを考えていなかった。だからダウン症の子供ならば生活が大きく変わってしまい仕事に復帰できないため産みたくないと思っていたのだ。ダウン症についてたくさん調べた上で夫婦で話し合い羊水検査を受けると、彼女の赤ちゃんは21トリソミーのダウン症であることが分かり、彼女は中絶を選択した。死産や人口死産をした人、中絶を選択し赤ちゃんを失ってしまった人の悲しみや苦しみはずっと心に残るのだ。●カノン先生(高3)の要旨要約■

□7人の子どもたちと⑥ ～餃子作りに挑戦～

ある日曜日。子供達が通っている塾の塾長から、手作り餃子の作り方を教えてもらい、早速作ってみた。午前中に強力粉からコネコネ。次女と三男坊が参加～(写真から、現場がどうなっていたのかはご想像にお任せいたします)なんとか無事にコネコネした後、夕方まで寝かせた。中の具も午前中に作って置いた。夕方、寝かせておいた生地を、丸い形にする作業だが、末っ子もやりた～い！と飛んできたので、皮を伸ばす作業をやらせた。丸くするのは難しいね～。なんとかきれいにできた数枚。左の方が上手に丸い形にできた～！そして、具を包み茹でる。茹で上がって置いておいたら・・・味見～とつまみ食いする三男坊～。「うんま！」出来上がりすぐに食べると、モチモチしていて美味しいね～。気づくと、味見を何回？したのかしら～。お皿の中の餃子がさっきまで山盛りだったのが半分ほどに減っていたのだ。その後、上の子達もずる～ずる～と入れ替わりで言いながらキッチンに登場し、次つぎと味見～！・・・。夕飯時には、数が足りなく、味見した子は餃子なし！！となるはめに。楽しい時間を過ごすことができたね、と塾長に感謝しながら、餃子完食。餃子作り大成功～！！他のおかずもあったのと、準備していた材料で餃子は約90個しか作れず。今度はもっと多めに準備しないと～と考えながら、餃子3個しか食べていない私であった。

●中2・中1・小5・小4・小1・年中・年少のお母さんからの VOICE ■4月に7人の子どもたちは一つ進級しました(うち二人が受験生です)/子育て奮闘記を「ブログ」に連載中ですので御覧ください



<<石川塾の肝心要 ～生きていくための要旨要約～>>

□記述力を身につける“二千字”要旨要約文(齋藤孝「使える!『徒然草』より」)

■「徒然草 第八十五段」～真似ることの上達する～

小見出し: **型から入る**

本文要約: 空手でも剣道でも型ばかり練習しているときは、なぜこんなことを繰り返し練習しなくてはいけないのか、わからない。しかし、実際に練習試合をしてみると、型がきちんと身につくといれば、相手の動きに応じて、自分の体が自然に動いていく。そうなってみて、なぜ型が大切なのかはわかる。つまり、型が身につくのはじめて、自分がやっていたのはこういうことだったのかとわかるわけである。見せかけであっても、達磨大師の真似をして形だけでも坐り続けていけば、だんだんと悟りが体感されるようになる。型、外見から真似をして入るといえるのは、どんな道にも適用できる技である。●セイナさん(小6)の要旨要約■

第百十段: 偽りても賢を学ばんを、賢といふべし。

[意味] たとえ本心でなくても、賢人を真似しようと学べば、それは賢人といっている。

■「徒然草 百二十七段」～一点を突破する～

小見出し: **何でも変えればよいものではない**

本文要約: いま、世の中は「何でも変えればよくなる」と思っている風潮がある。しかし、兼好は、「改めて益なき事は、改めぬをよしとするなり」という。「改めてもそれほど利益がないのだったら、それは変えないほうがいい」というのだ。この兼好の言葉は消極的な考えではなく、いかに変えればいいのかという示唆を含んでいる。不調や不況に陥ると、人間はどうしても変化を求める。しかし、それまで持っていた「良い部分」までも失ってしまう危険性もある。よかったときの状態がわからなくなってしまう、かえって悪くなってしまうことがある。

●シンペイ君(小6)の要旨要約■

第百二十七段: 改めて益なき事は、改めぬをよしとするなり。

[意味] 改めてもそれほど利益がないのだったら、それは変えないほうがいい。

□記述力を身につける“20+200 字”要旨要約文(齋藤孝『理想の国語教科書』青版/赤版/緑版より)

■夏目漱石「夢十夜」第一夜 (齋藤孝『理想の国語教科書』第1巻青版より)

一文要約: **死んだ女が百年後百合になって男に会いに来る話**

本文抜粋: 仰向きに寝た女が、静かな声で、もう死にますと云う。真黒な眸の奥に、自分の姿が鮮に浮かんでいる。腕組をしながら、どうしても死ぬのかと云った。死んだら、埋めて下さい。大きな真珠貝で穴を掘って。「百年待っていて下さい」と云った。土をすくう度に貝の裏に月の光が差してきらきらした。石の下から斜に自分の方へ向いて青い茎が伸びて来た。見る間に長くなって丁度自分の胸のあたりまで来て留まった。茎の頂に、心持首を傾けていた細長い一輪の蕾が、ふっくらと瓣を開いた。百年はもう来ていたんだなと気がついた。

●アツト君(小5)の要旨要約■

■森鷗外「杯」(齋藤孝『理想の国語教科書』第1巻青版より)

一文要約: **第八の娘が他の娘に悪口を言われても静かに独立の態度を示した話。**

本文抜粋: 皆子供に違いない。七人である。手ん手に懷を搜って杯を取り出した。大きな銀の杯である。かわるがわる泉を汲んで飲む。この時坂道を登って来て、七人の娘の背後に立っている娘がある。娘は裳のかくしから杯を出した。小さい杯である。「お前さんの杯は妙な杯ね。一寸拝見」「まあ、変にくすんだ色なこと」「石じゃあないの」「あたいのを借そうかしら」「わたくしの杯は大きくはございません。それでもわたくしはわたくしの杯で戴きます」●リホさん(小5)の要旨要約■

■アゴタ・クリストフ「悪童日記」(齋藤孝『理想の国語教科書』第3巻緑版より)

一文要約: **双子の兄弟が真実だけを書き記すというルールを作り、互いに読み合い評価する話。**

本文抜粋: ぼくらの学習教材は、おとうさんの辞典と、このおばあちゃんの家屋根裏部屋で見つけた聖書だ。作文の演習は次の要領でおこなう。ぼくらのうちの一人が言う。「きみは、『おばあちゃんの家に着く』という題で作文したまえ」ぼくらは書きはじめる。「良」か「不可」かを判定する基準として、きわめて単純なルールがある。ぼくらが実行したことではなければならない。つまり事実の忠実な描写だけにとどめたほうがよい。

●シンペイ君(小6)の要旨要約■

■中島敦「名人伝」(齋藤孝『理想の国語教科書』第1巻青版より)

一文要約: **天下一の名人になろうと弟子入りした紀昌が師の飛衛を除こうと矢を射るが相打ちとなり師弟愛の涙にかきくられる話。**

本文抜粋: 紀昌は遙々飛衛をたずねてその門に入った。二年の後には、絶えて瞬くことがなくなった。既に百発百中である。紀昌は、或日、ふと良からぬ考えを起した。どうあっても飛衛を除かねばならぬと。飛衛に出遭った。紀昌が矢を取って狙いをつければ、飛衛もまた弓を執って相応ずる。紀昌がその矢を放てば、飛衛は咄嗟に、その棘の先端を以ってハッシと鏃を叩き落した。敵に対する憎しみをすっかり忘れさせた。暫し美しい師弟愛の涙にかきくれた。●タクマ君(中1)の要旨要約■

♪課題図書(上記以外): 齋藤孝「スラムダンクな友情論」/ 小山鉄郎「漢字は楽しい」・「漢字は怖い」・「漢字百熟語」/ 夏目漱石「夢十夜」/ 渡部昇一「日本の歴史」(全7巻)/ 最相葉月「調べてみよう、書いてみよう」/ 漫画「コウノドリ」ほか

夏休みの時間の使い方で見える変わる

◎夏休みからはじめる♥公立中高一貫受験生テキスト♥◎



【公立中高一貫校受験テキスト:例】「思考力で合格! 公立中高一貫校適性検査対策問題集 算数的分野」(早稲田進学会 / 朝日学生新聞社) / 「考察力で合格! 公立中高一貫校適性検査対策問題集 理科的分野」(早稲田進学会 / 朝日学生新聞社) / 「分析力で合格! 公立中高一貫校適性検査対策 社会的分野」(早稲田進学会 / 朝日学生新聞社) / 「作文力で合格! 公立中高一貫校適性検査対策問題集」(朝日学生新聞社) / 「作文力で合格! 2 公立中高一貫校適性検査対策問題集」(朝日学生新聞社) / 「でる順グラフ問題 公立中高一貫校対策」(吉原 功/朝日新聞出版) / 「でる順過去問公立中高一貫校適性検査合格への126問 首都圏版」(旺文社)

◎夏休みからはじめる♥私立中高一貫受験生テキスト♥ノートづくり◎

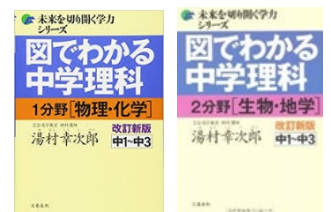


【私立中高一貫校受験テキスト:例】「予習シリーズ算数 4・5・6年 上・下」(四谷大塚) / 「予習シリーズ理科 4・5・6年 上・下」(四谷大塚) / 「予習シリーズ社会 4・5・6年 上・下」(四谷大塚) / 「『中学受験「だから、そうなのか!」とガツンとわかる合格する授業』シリーズ 理科」(実務教育出版) / 「『中学受験「だから、そうなのか!」とガツンとわかる合格する授業』シリーズ 社会」(実務教育出版) / 「円の転がりの攻略」 / 「回転体の攻略」 / 「立方体の切断の攻略」(学研プラス)

◎夏休みからはじめる♥高校受験中学理科テキスト♥ノートづくり◎

◆図を描くことで構造的に理解ができるのだ♥◆

- 「未来を切り開く学力シリーズ 図でわかる中学理科 1分野[物理・化学] 改訂新版」(湯村幸次郎/文藝春秋)
- 「未来を切り開く学力シリーズ 図でわかる中学理科 2分野[生物・地学] 改訂新版」(湯村幸次郎/文藝春秋)



◎夏休みからはじめる♥高校受験中学数学テキスト♥ノートづくり◎

■高校受験「数学」未来を切り開く学力シリーズ■

- ◆数学がわからない子も得意課目に♥◆
- 「未来を切り開く学力シリーズ 小河式プリント中学数学基礎篇 改訂新版」(小河 勝/文藝春秋)
- ◆基礎から公立・私立上位校へ到達♥◆
- 「未来を切り開く学力シリーズ 中学数学発展篇 方程式と関数 改訂新版」(橋野 篤/文藝春秋)
- ◆小学校から中学三年までの図形分野がこの1冊でマスターできる♥◆
- 「未来を切り開く学力シリーズ 中学数学発展篇 図形 改訂新版」(橋野 篤/文藝春秋)
- ◆確率・統計と図形と関数の融合問題をしあげる♥◆
- 「未来を切り開く学力シリーズ 中学数学発展篇 確率統計と総まとめ 改訂新版」(橋野 篤/文藝春秋)



♥生徒募集中♥紹介者には謝礼あり♥

体験授業は3回無料です。まずは授業体験を…お待ちしております。
お問合せは…TEL042-710-5768 読み書き算数 石川塾

◎夏期講習「入試得点UP」特別講座のご案内◎

■ミツキ先生の中学受験夏期(算数・理科・社会)♥10:30~12:30

『四谷大塚予習シリーズ』などを使い“使える♥ノートづくり”を指導♥テキストとテストで基礎力UP♥私立過去問や公立中高一貫対策テキストなどを徹底反復し得点をUP♥♥

■カン先生の中学受験夏期(国語・理科・社会)♥金曜・土曜ほかご相談ください

国語の要旨要約のコツを伝授♥理科・社会徹底反復プリントで知識の定着♥

■ヒロミ先生の中学・高校受験夏期(数学・理科)♥火・水・木・金17:00~19:00

公立中学適性検査2・公立高校過去問♥わかるできる♥ノセルのがうまい人気講座♥

■石川塾長の小中高生大人の国語♥英語♥8月11日~17日以外全時間帯対応

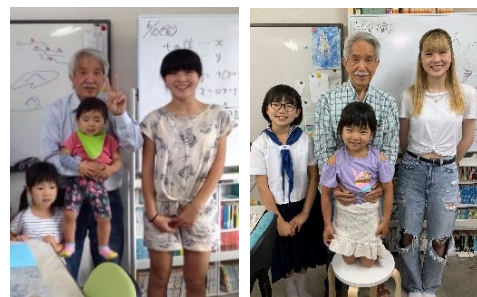
なぜ国語・英語を勉強するのか…納得の答えと、やる気を引き出す魔術師♥

子どもから大人までなんでもご相談ください♥

●2022年度 検定試験日程●

漢検の日程	数検の日程
2022/9/3土曜	2022/9/24土曜
2022/10/29土曜	2022/12/3土曜
2023/1/28土曜	2023/3/4土曜

お申し込み・お問合せは石川塾まで♥電話 042-710-5768



□塾の遠足「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☎042-710-5768)

●わが子と遊ぶ/わが子と歩む/わが子の歩み/わが子に学ぶ/鎌倉逗子葉山海浜を歩き土の道を歩く/塾の遠足はほぼ毎月/家族友だち知人どなたでも参加できます/2歳からの読み書き算数塾・大人のための石川ゼミ/本がいっぱいの教室/夢中な本/午前・午後・夜間いつでもお越しください/お友達の写真はホームページでご覧になれます ■「町田 読み書き算数塾 石川ゼミ」検索■

●スタッフ・浅沼花音からのVOICE●今回「ヘレン・ケラーはどう教育されたか〜サリバン先生の記録〜」の要約をさせていただき改めて教育について考える機会がありました。4月から幼児クラスを担当させていただき、今まで以上に専門的に生徒と関わる機会が増えました。生徒一人一人に合ったプランを考え、生徒にとっても私にとってもプラスになる授業となるように努力したいです■

●スタッフ・橋本結美からのVOICE●今季VOICEの推しは、巻頭を飾る特集モンテッソーリ教育です。私も、二人の息子もモンテッソーリ教育を受けました。入塾してから、石川塾でもモンテッソーリ教育を実践していると知り、これもご縁の一部なのかと思ったことを覚えています。ご存じの方もそうでない方もぜひご覧になって下さい。私も発行前に楽しみながら読ませていただきました！■

●編集長・渡邊光樹からのVOICE●子どもが何かに強く興味を持ち、集中して同じことを繰り返すある限定された時期を「敏感期」といいます。一見「イタズラ」に見える行動が実は敏感期の現われかも。「敏感期」を見る目をもつことと同時に、子どもへの接し方について考えたり工夫したりする「母親としての敏感期」にいることを自覚することが大切です。石川塾のモンテッソーリ講座では、子どもをよく観察し「敏感期」の捉え方、接し方などをお伝えしています■

□ホームページの「new 体験学習ガイド」欄に(俳句と写真■写真:kumi■/幼児教室/石川ゼミ/国語専科)を掲載しています

●編集兼発行人・石川剛からのVOICE●特集の相良敦子「お母さんの「敏感期」」は幼児ほか小学生中学生を持つお母さん方にもぜひ読んでいただきたい一冊です/“子どもができるようになる教え方”の項で順を追って7つ挙げています/(意外にむづかしいのは)④の「動作を見せる間は、言葉を使わない。」〜黙って、やって見せる〜ことです/さらに⑥の「教えながら、教える。」〜子どものまちがいを訂正しながら教えてはいけない〜正確に、はっきり、ゆっくり、繰り返し、見せる■

□石川塾長に「ききたい」「たずねたい」「参加したい」(いつでもなんでも気軽にコール/☎042-710-5768)

□<2022年 夏号「千の声VOICE」第17号>令和4年6月25日発行■HP「千の声ボイス」にバックナンバーを掲載

■〒194-0021 町田市中町1-30-8 菅井町田ビル2F/町高通り・税務署近く■☎042-710-5768